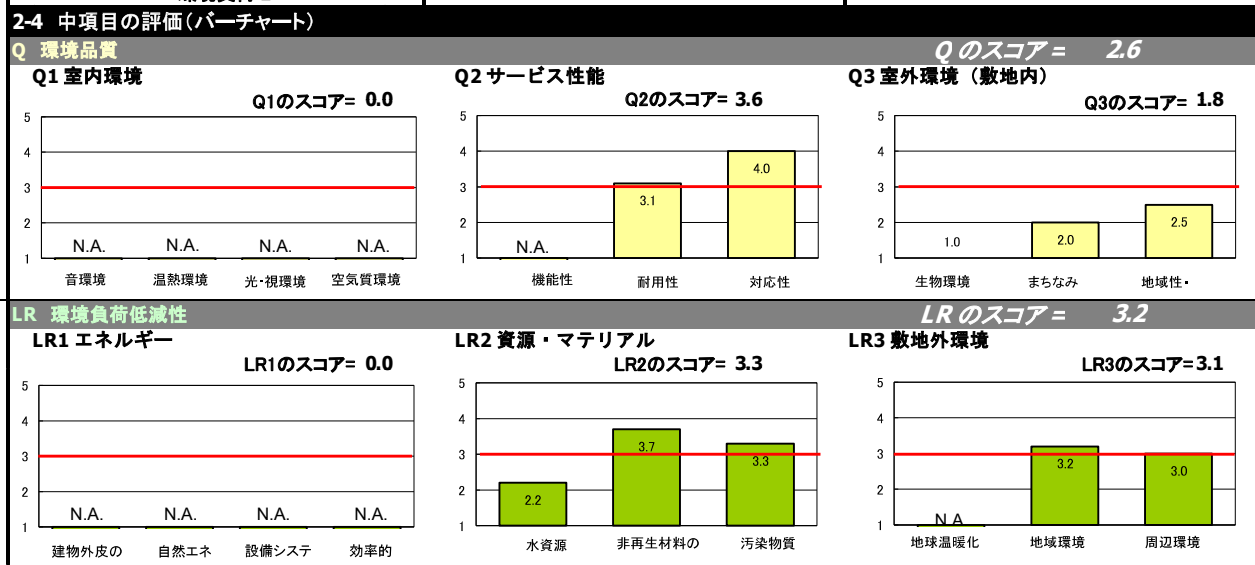
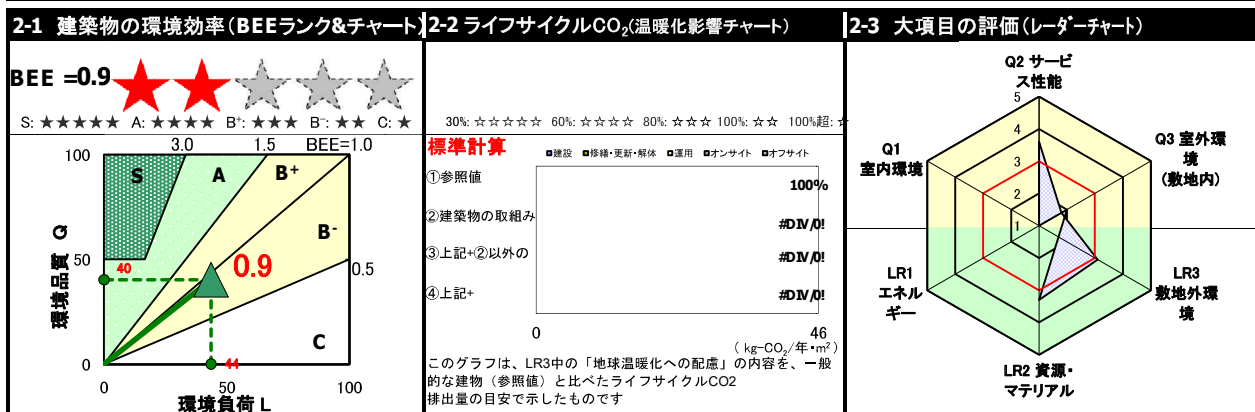


1. 建物概要							
建物名称	調原雨水ポンプ場 建設工事		BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
2. 重点項目への取組み度							
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.0	/5	がんばろう 				
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5	ふつう 				
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5	ふつう 				
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5	がんばろう 				
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 	がんばろう 3 点未満 		
3. 重点項目についての環境配慮概要							
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。			内訳対応項目				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			得点 2.0				
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 特になし。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上				
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) 評価対象外	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑪ 運用管理体制				
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑭無筋コンクリート・高炉セメントB ⑮LGSとGL工法も採用している。 ⑯ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑫ 雨水利用システム導入の有無 ⑬ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑭ 材料使用量の削減 ⑮ 既存建築躯体等の継続使用 ⑯ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑰ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑱ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑳ 有害物質を含まない材料の使用 ㉑ 消火剤 ㉒ 断熱材 ㉓ 冷媒				
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし。	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善				
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			得点 3.1				
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑱建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑳ 電気設備 ㉑ 機械・配管支持方法 ㉒ 通信・情報設備				
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			得点 3.3			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑階高3.9m以上。 ㉒0.1≤[壁長さ比率]<0.3	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ㉑ 3.1.2 ㉒	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ㉑ 階高のゆとり ㉒ 空間の形状・自由さ				
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし。	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上				
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			得点 2.5				
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 特になし。	Q-3 1 2 3 3.2	㉑ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上				
	■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) 特になし。	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 温熱環境悪化の改善				

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	柳原雨水ポンプ場 建設工事	階数	地上3F
建設地	静岡県袋井市大字高尾字柳原2741-8他22筆	構造	RC造
用途地域	地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	5 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年12月 予定	評価の実施日	2026年06月02日
敷地面積	8,398 m ²	作成者	落石 正興
建築面積	1,242 m ²	確認日	
延床面積	2,427 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		その他 特になし。
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。 階高:3.9m以上。 0.1≦[壁長さ比率] <0.3。 床荷重: 4500N/m ² 以上	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー 評価対象外	LR2 資源・マテリアル 構造耐力上主要な部分にリサイクル資材を用いている。 LGSとGL工法も採用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用しません。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される